

大会規則および選手注意事項

本大会は、2025年度(一財)日本陸上競技連盟規則によって行う。

1. 練習場は補助競技場とし、係員の指示に従って練習すること。ただし、投てき種目の練習、人工芝上のスパイクの使用は禁止とする。

2. 招集については以下のとおりとする。

(1)招集所は、100mスタート地点付近に設置する。

(2)招集開始および完了時刻は右記のとおりとする。

(3)選手は、当該種目の招集開始時刻が来たら、選手招集所に用意された出場選手一覧に、第1回目のチェック(自分の番号を○で囲む)を招集完了時刻5分前までに行う。

(4)第1回目のチェックを終えた選手は、招集完了時刻5分前に招集所の席で待機し、競技役員による最終点呼を受ける。

3. 競技場は全天候舗装であるので、スパイクピンは9mm以下とする。ただし、走高跳およびジャベリックスローは12mm以下とする。

4. 競技用具の持ち込みは、競技前に必ず検定を受けなければならない。

5. アスリートビブスは必ずユニフォームの胸背部に確実に付けること。ただし、走高跳と棒高跳と走幅跳については胸背部のどちらか一方でよい。

6. ユニフォームの上着の端は、ランニングパンツ等の内側に必ず入れること。

7. セパレートレーンで行われる競技では、決勝戦通過後は自分のレーン(曲走路)を走り、他走者の邪魔をしないこと。

8. 都道府県代表権決定種目のトラック種目は、予選、決勝を行う。三段跳、円盤投、ジャベリックスローは、3回試技を行い上位8名で残り3回の試技を行う。

9. U16三段跳びの踏切版について

男女ともに8mまたは10mの2段階から競技前に選択し実施する。競技途中の踏切版の変更は認めない。

※なお、全国大会では男子11m、女子10mで実施される。

10. 走高跳・棒高跳びのバーの上げ方は下記の通りとする。

<走高跳>

男子(練習1m25)30-35-40-45-50-55 以後3cmずつ上げる。

女子(練習1m05)10-15-20-25-30 以後3cmずつ上げる。

<棒高跳>

男子(練習2m00)2m00-20-40-60 以後は10cmずつ上げる。

女子(練習1m80)1m80-2m00-20 以後は10cmずつ上げる。

◎特殊条件によって変更するバーの上げ方は審判長が決める。

11. ハードルの高さはU16女子(0.762m/8.50m)、U16・U18男子(0.991m/9.14m)、中学女子記録会(0.762m/8.00m)、中学男子記録会(0.914m/9.14m)とする。また砲丸投の重さは、女子は2.72kg、男子は5.000kgとする。また円盤投の重さは、男子は1.500kg、女子は1.000kgとする。ジャベリックスローの重さは、男女とも300gとする。

12. 競技場開門時刻は6:30とし、コンコースの割り振り等は行わない。メインスタンドにシートを敷いたり、

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック	競技開始25分前	競技開始15分前
跳躍	競技開始40分前	競技開始30分前
投てき	競技開始40分前	競技開始30分前

ロープで囲ったりせず、譲り合って使用すること。

雨天走路は雨天時のみ開放する。(解放の場合は放送により連絡をする)

本競技場での練習は、7時から8時30分までとする。芝生での練習は7時40分までとし、7時40分以降は円盤投、ジャベリックスローの練習のみ使用できる。これ以外は補助競技場で行うこと。

13. 発病、負傷に対しては応急処置のみ行う。

14. 都道府県代表枠種目で1位になった学校の監督は、本部までU16大会参加申し込み書を小田川(大東)まで取りにくること。

※ 円盤投げ、三段跳びの優勝者は、標準記録突破した場合のみ県代表として本大会へのエントリーが可能である。県予選会で標準記録を突破できなかった場合、県予選会での順位を優先順位として、9月15日(月)までの他の大会で標準記録突破挑戦の猶予期間とすることを認める。

※ U16種目のターゲットナンバーラインの結果を受けて、都道府県代表枠種目の出場を辞退する場合は、9月15日(月)までに小田川(大東)まで申し出ること。その場合は、県予選会の順位に従って県代表の繰り上げを行う。